

鳥取県青少年育成アドバイザー協議会通信

鳥取県青少年育成アドバイザー通信48号
鳥取県青少年育成アドバイザー協議会
発行日 2006. 9. 30
編集 芳村恵子
〒680-0002 鳥取市浜坂東1-10-15

第1回アドバイザー研修会

日時 平成18年9月2日
場所 三朝町総合文化ホール
出席者 山本 清水 新川 森岡 西浦
松原 芳村

—「青少年育成鳥取県民会議あり方検討委員会」の提言(案) —
青少年育成鳥取県民運動の活性化に
向けた取り組みについて

今回の研修は、「あり方検討委員会答申」に盛り込むために、会長から提示されたアンケートに会員それぞれが先ず自分の考えをまとめてみることから始まった。

「あなたの市町村民会議は活発と思いますか」「より一層活発な市町村民運動を展開する為に、あなたの提案をお聞かせください」「鳥取県の青少年育成は何が問題だと思いますか」「県民会議の果たすべき役割、県民会議の重点運動目標を提案してください」などの質問があった。普段の研修会とはちょっと違った視点での意見交換となった。

自分達の活動の基盤となっている組織のはずなのに、私にとって余り身近に考えていなかったことを反省しつつ皆さんの考えを聞かせて頂いた。

その後は、いつものように楽しい懇親会でそれぞれの近況を語り合った。



多くのアドバイザーが

青少年育成推進指導員研修会に参加!!

— 育成運動の活性化を求めて・・・ —

山本邦彦

去る7月14日、倉吉体育文化会館において、県下の青少年育成推進指導員研修会が開催され、これに多くのアドバイザーが参加した。

本年度、本会の総会で、「我らの産みの親である国民会議が発足して40周年の記念すべき年を迎え、今こそ運動の原点に立ち返り、発足当時の理念を再確認し、組織の現状や活動の実態を点検しながら、青少年育成運動の更なる躍進を図る年とする」ことを決定しており、その具体的活動を実践するためである。

今回の推進指導員研修会は、県民会議の見直し検討委員会での協議経過を説明して、推進指導員の意見を聞き、それを検討委員会に反映させるための研修で、この中に、私たちアドバイザーの意見も加えてもらおうと会員に参加を呼びかけたもの。

その結果、山本会長、井上副会長をはじめ、森岡敏人さん・田中寛一さん・岩崎清江さんのほか、指導員の門脇哲也さんの6名が参加。竹本さん・馬屋原さん伊藤さんも参加予定であったが、都合ができて欠席された。



県民会議並びに市町村民会議の活動停滞の原因をさぐり、活性化に向けた意見を活発に交換しあった。

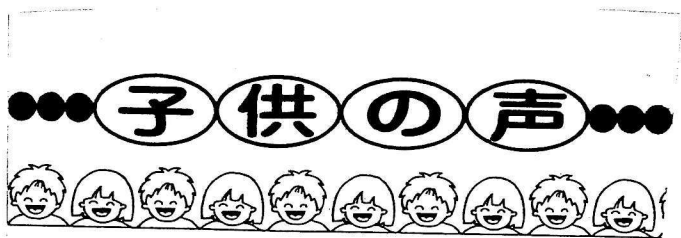
主な意見は

- ① 県民会議と市町村民会議の連携がうまくいっていない。(パイプが詰まっている。指導員だけにその役割を持たされても、実際は困難である。)
- ② 推進指導員の役割が不明確である。
- ③ 特に市は一名でなく地区公民館単位の数くらいに増員してほしい。
- ④ 県民会議と市町村民会議事務局の連絡会議が必要である。
- ⑤ 市町村民会議が動いていない。特に行政は次代を担う青少年育成の重要性を認識して、予算を充実するべきである。

裏面に続く

- ⑥ 常任委員はあて職でなく、実際に動く人を選任すべきである。
- ⑦ 事務局職員は専従職員にしてほしい。
- ⑧ 推進指導員・指導員・協力員など似たような職名が氾濫して住民も混乱し理解が得られていない。
- ⑨ 活動のマンネリ化を打破するための意見を交わす場所が必要である。
- ⑩ 青少年自身の意見を反映させる必要がある。などである。

本会としても、今年の会員研修会で、これらの意見をもとに私たちアドバイザーとして何をすべきかを話し合いたいものである・・・。



『少年の主張 鳥取県大会』

東 邦子

県民文化会館小ホールで開催された「少年の主張」を傍聴させていただきました。

育成アドバイザーの仲間でもあり、知人でもある西浦さんが審査員だということもあって、何年か前の東部での大会以来、久し振りに聴かせて頂きました。

そのころの県大会に比べ、格段のレベルアップを感じました。先ず、態度が堂々としている事、言葉がはっきりとしていて聞きやすい事、自分の主張したいことがしっかり文の中に出ている事、・・・等、どの生徒の主張にも共感し、感動しました。

客席でいる私も審査させていただき、私の審査通りの優秀賞・最優秀賞だったこともあり、感激しました。

最優秀賞には、倉吉市立久米中学校の加島紗瑛さんの「国際交流とは」が選ばれました。小学校の頃カンボジアに行った時の想いを、今も深く胸に刻んでいる加島さんの発表でした。うわべだけの国際交流ではなく、もっと深い意味を持った国際交流を考えないといけ

ないのだと考えさせられました。加島さんが、カンボジアの底辺を見てきてくれたことにも感動しました。内戦によって食べるものも住む家も失って、それでもなお目を輝かせていた子ども達のことをしっかり覚えてくれました。近い将来、地球上に哀しい目をした子どもがいなくなる日が来て欲しいと願わずにはられません。

また、「将来、幸せいっぱい自分を想像するとワクワクする」と発表された方のように、この発表者全員、またこの場には惜しくも出られなかった1176名の生徒の皆さんの将来がワクワクするような人生であって欲しいと思いました。

少し残念なのは、県西部の中学校からの出場が多く、東部は低迷しているように感じましたが、現実はどうでしょうか。来年は、東部の中学生達の素晴らしい発表を聴かせて頂きたいと思います。



編集後記

すっかり秋らしくなりました。実家から新米も届きました。早速栗ご飯にして季節を満喫させて貰いました。

こんな幸せいっぱいの日々ではありますが、テレビでは、毎日のように殺人事件のニュースが流れます。高校生や中学生までもが人間関係のもつれという結末に哀しくなります。眉をひそめて「何で、何で？」としか言葉になりません。

こんな状況で「美しい国 日本」に本当になれるでしょうか。

oine.oine.oinechan@fork.ocn.ne.jp
(word で入れてください)